

4年に一度のサッカーの祭典、ワールドカップが開催中です。これを書いている6/25時点では、4チーム総当たりによるグループリーグの第2戦が一巡したところ。勝敗を見ると初戦こそ波乱が見られたものの第2戦を終えた現在では、順当にサッカー強国といわれる所がグループ上位にいる印象を受けます。そして注目の日本代表は一勝一分という戦績。大会前の悲観的な予想を考えると（実は私もですが）、驚くほどの好結果が出ているように思います。本誌が発行される頃にはどうなっているのでしょうか。そこまで代表が勝ち残っていることを期待します。

ところで、以前から私は、日本代表戦の観戦で、とある施設のパブリックビューイングを利用しています。知人との約束によるものですが、今年もそこで観戦しようと予約の電話を入れた所、今年はやっていないとの回答が。仕方がないので、他の場所で観戦することにしたのですが、後日その施設の公式ホームページでは「今年もパブリックビューイングを行いました」との記載が。おそらく私のような問合せが多数あったなどの理由で、急きょ開催することにしたのでしょうか、開催しないとの理由で断念した身としては、何だかもやもやしたものを感ずいてしまいます。(S.S)

最近、花粉が飛ぶ時期でもなければ、風邪やインフルエンザの流行期でもないのに、1年中マスクをしている人をよく見かけます。しかも、そのうちの何割かは口しか覆っておらず、鼻がむき出しで、感染予防や花粉症対策といったマスク本来の効果が見込めない使い方をしてます。知らないののだろうか、教えたいなとムズムズするのですが、実はマスクの道具としての役割が近年大きく変わってきたのが原因のようで、必ずしも衛生面での効果を目的としていない人もいます。それこそ「伊達マスク」という呼び方まであります。

女性が伊達マスクをする理由としては、1位 スッピンを隠せる、2位 あたたかい、3位 顔が隠れる安心感、4位 肌の保湿、5位 口臭防止、6位 目元が強調される等々、衛生面以外の利用法が次々と並びます。そうした新たなニーズを受けての商品の1つに、「小顔に見えるマスク」などもあるようです。

一方、理由3位の顔が隠れる安心感に関連して、心の不安から日常的にマスクを外せなくなってしまった人もいます。精神科医は「マスク依存を続けていると、社会との壁を高く作ってしまう」「ひきこもりに陥ってしまう危険性もある」と警鐘を鳴らしており、気になるところです。(Y.H)

こんな時が危ない!

- 工事繁忙期よりも、終期、特に撤収作業時
- 非常に危険と思われる作業よりも、それほど危険と思われない作業時
- 同一作業が長く続くよりも、1日~2日とか半日、あるいはもっと短時間で終わる作業時
- わかりきった常識的な作業手順を守らない時
- 作業時に積極的な人が、指示以外の作業をした時
- 安全設備を取りつける段取りに取りかかる前
- 教育を十分うけているはずの職長や工事監督がルール無視の行動をした時
- 立入り禁止箇所、危険箇所を承知して、そこへ行った時

「Raisers」はホームページでも閲覧可能です!

「Raisers」の最新号から過去記事までホームページで閲覧することができます。

<http://www.itea.or.jp/works/raisers.html>

また、ホームページ内の検索窓から

読みたい記事の関連キーワードにより全文検索も可能です。是非ご利用ください。



Raisers第66巻第4号(通巻第731号) 平成30年7月5日印刷 平成30年7月10日発行

定価 648円(本体価格600円) ※会員、特別会員の本誌の購読料は、会費の中にこれを含む

編集 一般社団法人情報通信エンジニアリング協会 〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町3-3

Tel. (03) 3464-3211(代) Fax. (03) 3464-3216

発行所 一般社団法人電気通信協会 〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-1 如水会ビルディング6階

Tel. (03) 3288-0608 Fax (03) 3288-0615

(本誌掲載記事の無断転載を禁じます。)

